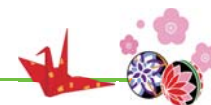


発行日：2017年1月5日

発行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

新年のご挨拶



総長 倉智 博久

新年明けましておめでとうございます。本年が皆さまに実り多い年となりますよう心から祈念いたします。昨年は、多くの患者さんをご紹介いただくなど様々で協力いただきありがとうございました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

当センターにとって地域連携は最重要課題であり、2014年8月に立ち上げた「患者支援センター」の強化・充実を図っています。センター長は位田副院長、副センター長は専任の田家副看護部長、鈴木小児神経科主任部長、廣瀬耳鼻咽喉科主任部長で、看護師、保健師、MSWなど多くの職種で業務に取り組んでいます。また、広報を充実させるべく、センターと診療科のフェイスブックを開設していますので、ご高覧いただければ幸いです。さらに、地域の先生方との間でネットワークシステムを用いた診療情報共有化も計画しています。

当センターでは、診療のハードルを下げ一般的な小児の内科的・外科的疾患も担当することを重視しています。また、ローリスクな妊婦も喜んでお引き受けいたします。先生方からの救急の依頼、病院間搬送に対応させていただきます。重篤な小児救急の要請には必ずお応えいたします。

皆さま方のご協力をいただきながら、ますます地域に貢献できる母子医療センターであるべく努力いたします。



明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、よい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。日頃は、母子医療センターとの医療連携に多大なご協力をいただきありがとうございます。本年も引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

重症疾患、先天性心疾患、小児外科疾患など以外にも、一般的な疾患や、ローリスクの妊婦も広く受け入れておりますので、紹介患者さんの予約受付、セカンドオピニオンの受付には、患者支援センターをご利用ください。

重症化した小児の病院間搬送には、PICUホットライン(24時間受付、直通)にて集中治療科医師に直接お電話ください。小児がん・白血病症例のご相談・ご紹介には小児がん・白血病ホットラインで血液・腫瘍科医師が対応いたします。

母子医療センターでは疾患を持ちながら成長している患者さんの自立支援、成人期を迎える患者さんの成人病院へのスムーズな移行などを目的とし、移行期医療にも力を入れています。こちらの方面でも地域の医療機関との連携が不可欠です。ご協力をよろしくお願いいたします。

地域医療連携を緊密にする試みの一つとして、地域連携懇話会(年2回開催)、地域医療連携研修会(年1回開催)を開催し、地域医療機関の皆様との意見交換の場を設けています。皆様のご参加をお待ちしています。



病院長 木内 恵子

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

腎・代謝科

腎・代謝科では腎疾患および糖尿病、骨代謝疾患を主に扱っております。3歳半健診や学校検尿での検尿異常者に対する精査、腎炎、ネフローゼ症候群をはじめとして急性・慢性の腎不全に対する治療を行っており、「検尿異常から腎不全まで」の一貫した診断治療を目標にしております。健診や機会検尿での尿異常や軽度の腎機能障害が疑われた時などで紹介いただければ幸いです。

また、当センター泌尿器科をはじめとする他科との連携によって生体腎移植も行っております。腎機能障害の進行がある小児に対して透析、移植といった腎代替医療のご相談にも乗らせていただきます。

糖尿病に対しては従来のインスリン強化療法に加えて、ポンプを用いた持続皮下注射も積極的に行っております。

骨形成不全症、軟骨異栄養症といった比較的頻度の高い骨系統疾患の診断治療に加え、希少疾患である低ホスファターゼ症に対する酵素補充療法も行っております。易骨折性のある小児、O脚、骨変形、四肢短縮型の低身長などを認める小児の精査加療を行っております。

今後ともよろしく願い申し上げます。



腎・代謝科スタッフ

(腎・代謝科 主任部長 山本勝輔)

耳鼻咽喉科

当科で扱う主な疾患は枠内にありますが、小児病院ということで気道疾患と難聴が重要な分野となっています。



耳鼻咽喉科スタッフ

主な対象疾患

- 1.気道疾患、睡眠時無呼吸症候群、扁桃肥大、アデノイド肥大、喉頭軟弱(軟化)症、気道血管腫、気道肉芽、声帯麻痺、気道乳頭腫、喉頭蓋嚢胞、気道異物、嚥下障害
- 2.難聴、滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎
- 3.正中頸嚢胞(甲状舌管嚢胞)、梨状窩瘻、副耳、舌小帯短縮症、先天性耳瘻孔など

小児気道疾患の診療には特別のスキルが必要となることが多く、例えば、自発呼吸を残しながらの全身麻酔下の検査、手術をしていることなどは当科の特徴です。数的には扁桃肥大、アデノイド肥大の手術が大変多く、ハイリスクの症例も取り扱っている他、喉頭軟化症の手術など、国内ではほとんどされていない手術も行っています。

難聴に関しては、小児用の聴力検査(CORなど)、鎮静を要する他覚的検査(ABRなど)を行う他、各種中耳炎に対する手術、さらには、重度難聴に対する人工内耳手術を行っています。

耳鼻科処置は子供さんに大変嫌がられるものですが、できるだけ苦痛が少なくなるように、処置を優しく、最小限にするように心がけています。

(耳鼻咽喉科 主任部長 廣瀬正幸)



専門看護師の紹介

私は患者支援センターに所属しており、主に相談業務を行っています。相談内容によっては継続して外来で子ども・家族を支援させていただくこともあります。

また、小児がん相談員という役割も担っていますので、発病間もないご家族に情報提供を行い、長期入院にあたってのきょうだい、学校、祖父母などの支援体制の調整について助言を行っています。退院前には学校との復学カンファレンスや地域医療機関との合同カンファレンスなどに参加し、院内外の関係者とともに退院支援にあたっています。

小児がん治療後の長期フォローアップ外来を受診された方に対しても医師・外来看護師・心理士と協力して「治療後の生きづらさ」を支援しています。

その他の役割として院内虐待対応チーム、子ども虐待防止委員会小委員会の中心的メンバーであり、各部署のリンクナース、他職種と協力して「早期発見」「支援につなげる」「予防」に取り組んでいます。

地域の皆様とともに医療の必要な子どもがその子らしく生活できるように支援していきたいと思っておりますので、小児看護に関するケア、研修などでお困りのことがありましたら、お気軽に患者支援センターまでご相談ください。



小児看護専門看護師
川口 めぐみ

第3回 地域医療連携研修会のご報告

2016年9月10日(土)に「第3回地域医療連携研修会」を開催しました。今回のプログラムは、当センター呼吸器・アレルギー科 錦戸知喜副部長による教育講演「RSウイルス感染における最近の話題」と大阪大学大学院医学研究科心臓血管外科教授 澤芳樹先生による特別講演「医療のFuturability」でした。



情報交換会では、地域の先生方に少しでも当センター医師の顔を覚えていただけるよう、全診療科の代表者の紹介を行ったあと、地域の先生から当センターへのご要望などを直接お聞きしました。約100名の皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終わりましたこと改めてお礼申し上げます。

PICUホットライン開設後の受入れ実績

PICUでは、2015年1月にPICUホットラインを開設し、24時間体制で小児の重症患者の受け入れを行っています。ホットライン開設前後で搬送患者数は、44件から56件に増加しています(図1)。疾患群は、けいれんなどの神経疾患が増加し全体の28%を占めています(図2)。

図1 ホットライン開設前後の搬送数(件)

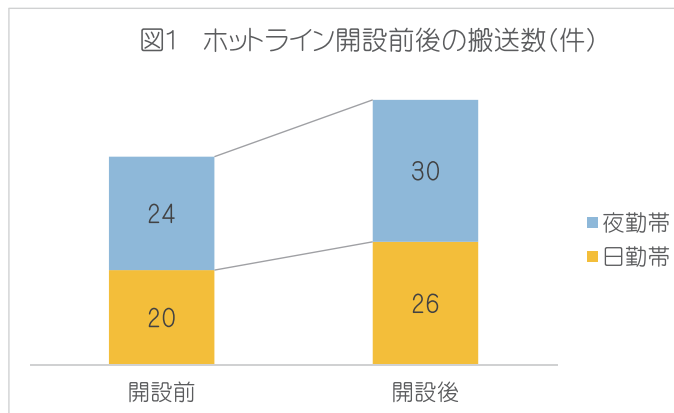
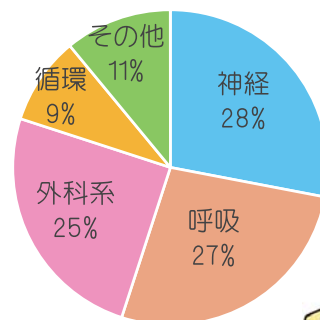


図2 搬送患者の疾患群(2015年度)



PICU 管理が必要な重篤小児患者さんは
ホットラインに直接お電話ください。

▶▶▶ ☎ 0725-56-1070



こどもセミナーを開催しました

子どもの自立を支援する取組として、ここからの会、移行期医療支援委員会が中心となり、夏休みに子ども向けセミナー「夏休みからだを知ろうセミナー 2016「息をすること食べることを」を開催しました。各診療科の先生が講師となり計5回開催し、総勢31名の子どもたちが参加してくれました。



セミナー終了後、受講修了書とおさがいが手渡され、子どもたちは嬉しそうに手にしていました。

今後も春休み、夏休みに開催していきます。

News

平成28年度

母子保健家族計画事業功労者
厚生労働大臣表彰

佐藤 拓代
母子保健情報センター長が

受賞
しました



この表彰は、厚生労働大臣が、母子保健事業又は家族計画事業の推進に資するため、本事業に永年従事し、著しい功績のあった個人および団体に表彰を行うもので、今年で51回目になります。

イブニングセミナーのお知らせ（医療関係者対象）

引き続きイブニングセミナーを開催いたします。

日時 2017年2月2日（木）17時30分～18時30分

場所 大阪府立母子保健総合医療センター 研究所大会議室

テーマ 「親と子の絆と笑顔を大切に」
～私たちの看護を紹介します～

講演者 看護部長 福寿 祥子

副看護部長（患者支援センター副センター長） 田家由美子

事前申込 不要

セミナーは大阪府医師会
生涯教研修システム
1単位に認定されています



病院見学ツアー

引き続き実施いたします。

参加ご希望の方は事前にお電話の上、参加される方の

●氏名 ●医療機関名 ●職種 ●人数 をご連絡ください。

連絡先：患者支援センター（☎0725-55-3113）

連携登録機関へのアンケート結果の対策

2016年7月に連携登録医の皆様に実施したアンケートのご意見をもとに、以下のとおり改善に向けて対応をしております。

①「初診受付窓口の対応」

➡「よい」対応のために窓口対応者の接遇等の研修を行って参ります。

②「急性増悪時の対応」

➡患者さんの急性増悪時は、積極的に受け入れておりますので、遠慮なくご連絡ください。また、高度な治療が必要な場合はPICUホットラインを開設しておりますので、直接ご連絡ください。

③「外来担当医師名の表示」

➡現在、外来診療担当医師名はホームページに掲載（病院トップ⇒受診のご案内⇒診察日一覧）しておりますが、よりわかりやすく、診療科ページにも表示するよう院内にて調整中です。

交通のご案内



診察時間：平日 午前9時～午後5時

予約受付時間：平日 午前9時～午後7時

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター
患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890（直通）
FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113（直通）
FAX：0725-56-7785

医療者対象
ホットライン

（※24時間受付直通）

【PICUホットライン】

☎0725-56-1070

【小児がん・

白血病ホットライン】

☎0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。